

「つむぎのかみさま」

奄美市立小宿小学校 二年 いな田 ゆい

ユイは、とても元気で、やさしい子。

ある日、友だちとあまみのはくぶつかんに行きました。「うわあ。きれいなつむぎだ。」

大島つむぎです。ユイは、あまりにきれいなので、うっとりしてしまい、大島つむぎの前でねむってしまいました。

目がさめると、そこは、大むかしのあまみ大島でした。海は青く、山のみどりはとてもきれいでした。

しかし、どこかちがうことをユイはかんじました。村の方にあるいていくと、村の人を見つけました。ユイは声をかけようとしたが、やめました。なぜかという、村の人たちがとても元気がなく、たおれてしまいそうだったからです。

しかし、目の前でこまっている人がいたらたすけたくなるユイ。ゆうきをふりしぼって、声をかけました。

「どうしたんですか。だいじょうぶですか。」

おじいさんは、小さな声でこたえました。

「じつは、村でむかしから大切にされてきた大島つむぎがなくなってしまうの。それで、村ではびょうきに

なる人がおおくなり、やさいもそだたなくなつたんじや。」

ユイは、おどろきました。

「大島つむぎを作ることができたらもとの村にもどるのですか。」

ユイがきくと、おじいさんはうなずきました。ユイは目をかがやかせて、

「わたしが大島つむぎを作ります。そして、村の人を元気にします。」

すると、おじいさんはためいきをついて、

「おまえさんには、むりじや。この大島つむぎを作るには、糸のかみさま、そめのかみさま、おりのかみさま、

三人のかみさまの力がひつようじや。」

ユイは、おじいさんのかたをつかんで、

「おしえてください。わたしが、どうにかして大島つむぎを作ります。」

おじいさんは、ユイのつよいきもちにまけて、古い地図をわたしました。

「分かった。くれぐれも気をつけて行くんだぞ。」

ユイは、おじいさんからもらった地図をもってさいしよのかみさま、糸のかみさまの所に行きました。

「すみません。村の人のために大島つむぎを作りたいのです。」

糸のかみさまは、ユイにやさしく糸の作り方をおしえてくれました。

糸くりからはえばた、のりはり、しめばた、一本の糸にまるでいのちをふきこむかのようにていねいにていねいに作っていききました。

「どうじゃ。できたぞ。」

ユイは、できあがりにはびっくりしました。ピカピカ光っているように見えました。糸に見とれるユイをみて、糸のかみさまが、

「早くつぎに行くのじゃ。村の人たちを元気にするんだぞ。」

ユイは、はつとして、つぎのそめのかみさまがいる所へいそぎました。

すると、ラツキーなことに、そめのかみさまとおりのかみさまがいつしよにしようぎをしていました。

ユイは、よろこびました。そして、二人に声をかけようとしたそのとき、地図にかいてあったあることばを思い出しました。

「かみさまのじやまをしてはいけない。しかし、そのときによろちゅうとけいはんをつくってわたしなきい。」

ユイは、地図にかいてあるとおりにしようぎがおわるまでまちつづけました。

しようぎがおわると、そめのかみさまが、まんぞくそうなかおをして、

「おまえさんはとてもいい人だな。その糸をわしがそめてあげよう。」

そめのかみさまは、テーチギをすばやくチップにし、にこみ、そめました。そして、どろの中に入れてていねいにていねいにそめました。糸が白からくろっぽい色にかわりました。次に、おりのかみさまはたおりきでていねいにていねいにおっていききました。

「できたぞ。早く村の人にもっていくのだ。きっと村の人も元気になるぞ。」

ユイはできあがった大島つむぎをもつて村にいそぎました。

「大島つむぎをもつてきたよ。」

村の人たちはとてもよろこびました。するとそのときです。村に大きなじがかかり、やさいがみるみる大きくなりました。

「ユイ。ありがとう。あなたのおかげで、もとの元気な村にもどったよ。」

みんなで喜んでいると、はつと目がさめました。目の前には、村のために作った大島つむぎがきらきらとかがやいていました。

それからユイにとって、だいすきなばしよになりました。

た。